

◆ 先づ隗より始めよ ◆

5 - 2 …。

10月3日、本校の野球部は「第73回 秋季関東地区高等学校野球茨城県大会」準決勝で敗れた。

夏の代替大会の際は保護者の皆さんと一緒に、球場で声援を送ることができたが、今回はそれもかなわない。公立高校としてただ一校勝ち残ったため、関係の皆さんからたくさんの応援をいただいた



が、インターネットで試合経過を追っていくことしかできなかったことが歯がゆかった。

新チームになってから初めての大きな大会だ。9月14日の地区大会代表決定戦の勝利から一戦一戦、県大会をコツコツと勝ち上がってきた。「走塁や守備にミスが重なった」（10月4日付け茨城新聞）とはいえ、しぶとく食い下がる本校らしさを随所に見せ、9回表の最後の攻撃まで諦めないしぶとさがあった。

5日の月曜日、お疲れ様との声をかけようと思い放課後のグラウンドへ行ってみた。激しくボールを追っているのだろうと想像していたのだが、そこには全く別の光景があった。監督が生徒に向かって語っている。少し遠くから見ていたので会話の内容ははっきり聞き取れない。恐らく、監督の語りかけに関係のある生徒が反応している。何やら禅問答のようだ。

そうか、本校野球部の伝統はこういう部分の継承にあったのか、と目から鱗が落ちるようであった。

「先づ隗より始めよ」 監督の話を聞きながらこの言葉が浮かんだ。身近にできることをもう一度確認しよう。

今大会中、野球部の生徒にこう語りかけたことがあった。このメンバーで野球ができることに感謝しよう、そして苦しいときこそ頑張る。

全力で立ち向かった後には爽やかさがある。今回の結果も真剣に受け止めて欲しい。そして次に向けての作戦を立てる。「先づ隗より始めよ」…。

今日も元気な彼らのあいさつが聞こえる。その上を、気持ちの良い秋風が吹き抜けた。